

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101869
法人名	医療法人 啓正会
事業所名	グループホーム モン・サン時津
所在地	長崎県西彼杵郡時津町野田郷757 (電話) 095-860-2070
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年2月19日

## 【情報提供票より】 (平成20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 19人, 非常勤 1人, 常勤換算	19 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリー	造り
	3階建ての	1 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,750~16,275 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		840 円	

### (4) 利用者の概要 ( 2月 1日現在 )

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.2 歳	最低	66 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 啓正会 清水病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

永年、地域医療に携わってきた医療機関が設立したホームであり、3階建てで自然環境にめぐまれた場所に立地している。ホーム内から季節を感じることができる景色が見渡せ、利用者や訪問者の心を和ませている。また、敷地の隣に地域の方が作られている畑があり、利用者との交流の場となっている。居室にはトイレも設置され、リビングを囲むように各部屋があり利用者の孤独感が軽減する造りになっている。管理者と職員の努力により、利用者を優先し、利用者の人格が尊重されている事が伺われ、それがホーム全体の和やかな雰囲気となって表れていた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった、運営推進会議の開催、苦情の外部窓口の明記、避難経路図の掲示等、いずれも改善シートを活用し職員で話し合い改善が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については管理者から意義の説明がされ、用紙を各ユニットのリーダーに渡し、職員が話し合いながら行っており計画作成担当者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の外部評価を受け、その後3回開催をしている。参加メンバーとしては家族、施設長、管理者、介護支援専門員、職員で構成され、議題は事業所に関わることやホーム内の様子、今後の地域との関わりについての願望、外部評価の結果報告などである。また会議後、メンバーに避難訓練を参加して頂く等、積極的な働きかけが成されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に要望を聞いたり、「意見箱」の設置をするなど意見や不満、苦情を気軽に伝える工夫はされている。しかし、今の所申し出はない。前回の改善項目であった外部窓口の設置として、重要事項説明書に国保連合会の介護苦情申立専用番号と町役場高齢者支援課の番号を明記している。苦情の流れをスムーズにするため、ご意見箱処理苦情体制作りがされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、積極的に自治会行事の掃除や夏祭り、敬老会などに参加している。ホームの裏で畑作業の方との会話や声かけ、又花や野菜をもらうなどの付き合いがある。自治会からの要望で地域の青少年を守る「子供110番の家」として貢献している。地域の美容室から利用者のために、ホームへ出向いて来られるなど地域の方との交流がなされている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまで以上に地域におけるホームの役割が、管理者はじめ職員にも浸透しており、地域と積極的に関わる雰囲気作りがされている。利用者がホームを家庭として過ごす中で「やさしく、楽しく、元気よく」暮らしていけることが地域で生活することを支援する理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は家族にも職員にもわかり易い言葉になっており、家族にも見やすいように玄関や各ユニットに掲示している。職員は利用者と生活する中で、掲示してある「やさしく、楽しく、元気よく」の理念を常に心がけ、本人の楽しみを増やす努力や話し合いが職員同士で成され、日々の申し送り時、理念を実践する取組みを具体的に話し合っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、積極的に自治会行事の掃除や夏祭り、敬老会などに参加している。ホームの裏で畑作業の方との会話や声かけ、又花や野菜をもらうなどの付き合いがある。自治会からの要望で地域の青少年を守る「子供110番の家」として貢献している。地域の美容室から利用者のために、ホームへ出向いて来られるなど地域の方との交流がなされている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者から職員に意義の説明がされ、用紙を各ユニットのリーダーに渡し、職員が話し合いながら行っておりケアマネージャーがまとめている。外部評価の改善項目については、運営推進会議の定期的な開催、苦情外部窓口の設置、避難経路の改善があり、運営推進会議の中で取り上げ話し合い、改善シートの作成を行い具体的な改善がなされている。		

グループホーム モン・サン時津

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーとしては家族代表、自治会会長、包括支援センター職員、施設長、管理者、介護支援専門員、職員で構成され、議題は事業所に関わることやホーム内の様子、今後の地域との関わりについての願望、外部評価の結果報告などである。また会議後、メンバーに避難訓練に参加して頂く等、積極的な働きかけが成されているが、開催は2月現在で3回である。	○	前回の外部評価を受け、今年度から開催を行い2月の調査時点で3回開催されているが、今後は同事業所の他ホームが実施している2ヶ月に一度の定期的な開催を目標とし、より有意義な会議が運営されることを期待する。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入居にあたっては、包括支援センターからの紹介があったり、又相談時にはホームの見学もある。先方から入居状況や空き室などの問い合わせがあったり、ホームから相談に向くこともある。利用者の入居、退去や医療機関に関する相談をするなどして関係作りがなされている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2週間に1回利用者の近況報告を電話にて報告しており、又行事などがあった場合はその都度「ホーム便り」として、写真などを入れて郵送している。体調の変化があった場合は主任の指示の下おこなわれており、検査後の結果は家族へ報告している。金銭管理は法人内で一括して管理されており、請求書、領収書などは個人別に面会時や郵送にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望を聞いたり、「意見箱」の設置をするなど意見や不満、苦情を気軽に出せる工夫はされている。しかし、今の所申し出はない。前回の改善項目であった外部窓口の設置として、重要事項説明書に国保連合会の介護苦情申立専用番号と町役場高齢者支援課の番号を明記している。苦情の流れをスムーズにするため、御意見箱処理苦情体制作りがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間での異動はあるが、法人事業所間での異動はほとんどない。利用者は普段からユニットを超えて馴染みの関係作りがされている。退職の場合は前任との引き継ぎ期間を持ち、利用者に関する情報やカルテを見て対応の仕方を確認する。長年いる職員が多く、利用者個々の把握がなされており寄り添うなどの配慮をしている。職員間の悩みは主任が相談し、希望の休みを入れるなどして職員の異動を防ぐ努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修については職員全員に案内があり、パートや正社員などに関わらず研修に参加できる体制作りがある。法人内での研修が毎月当番制で行われており、栄養士や理学療法士が参加しており、研修後は月1回のスタッフ会議で報告したり、参加できない場合はコピーして渡している。資格修得に向けては職員希望があれば可能である。新人研修としては各ユニットのリーダーに半月～1ヶ月付き、実践しながら行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、同業者との研修、食事会、ボーリング大会などで交流する機会があり、相談ができる場となっている。また、近隣の同業者で組織する時津長与連絡協議会も発足しており、今後活動に参加したいと考えている。見学は随時可能であり、当事業所の利用者移転の際には移転先の見学を行い同業者との交流に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は母体の病院からや、包括支援センターからの紹介で来られる方が多く、サービスをいきなり開始するのではなく、入居前に家族と相談し、本人の見学後、意志決定のもとに開始される。入居後暫くは、職員が場所や雰囲気徐々に慣れるように声かけや見守りで支援し、又夜の状況も家族に報告や相談をするなどして工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴から三味線や畑仕事等、利用者の得意な所を見つけ、それを活かし職員も一緒に楽しむ場を設けている。また人生の先輩とする尊敬の意を職員全員で共有しており、普段から利用者に教えてもらうことが多い。職員も利用者も同じ人間として、お互いの喜怒哀楽をだそうとする関係づくりを築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が普段から傾聴に心掛け、月に1度のスタッフ会議の場で、利用者からの意向を聴取した内容について全職員で対応策を検討している。耳や言葉の不自由な方の場合、日々の行動や表情から汲み取りそれとなく確認するようになり、家族に相談して思いや希望が少しでも把握できるよう努力されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心して暮らせるように、かかりつけ医と家族との相談のもとで計画を作成後、原案を家族が確認している。「ケアプラン表」は1枚にまとまり見やすいが、本人や家族の要望等の欄がない。	○	本人や家族の思いや意向の記録はケアプランの基本情報となる重要な情報である。ケアプラン表には本人、家族の意向を明記する箇所を設け、計画に反映したことがわかるよう様式を検討することが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス開始の最初の内は3ヵ月ごと、その後、状態に変化がない場合6ヵ月後の見直しだが、全体の職員が月1回のアセスメントで読み合わせによる情報交換を確認し、家族や利用者の要望を取りつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には家族と方針を話しあい、現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて柔軟な支援をしている。美容院への送迎、帰宅等、特に法事の出席は本人・家族から、たいへん喜ばれた。また入院した方への面会や早期退院に向けて支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同意のもとで母体の病院をかかりつけ医にされる方が多いが、入居前のかかりつけ医での医療を定期的に受診したり、訪問診療に来てもらう場合もあり、適切な医療を受けられるように支援している。また定期的に母体病院から看護師が巡回に来ており、利用者や職員の相談役となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関する指針があり、入居時に本人・家族に説明が成され、普段から職員や家族なども方針を共有するための話をしている。状態の変化がある時は、母体の病院が24時間対応を行い、個別のかかりつけ医がいる利用者については、かかりつけ医の訪問や、家庭への配慮も考え対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者に向けて発する言葉や内容には十分注意を払っている。利用者一人ひとりに合わせた言葉使いに心がけ、又他の家族や外来者に対しても、全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、職員採用時、誓約書を交わしている。書類の保管等守秘義務が徹底されている。また写真掲載等も利用開始時に作成した本人や家族の同意書がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は個々の状態や希望にそって、利用者主体に日々の支援を行っており、起床が遅く朝食に間に合わない利用者には無理強いせず、起床後に朝食を提供している。職員は日々出来るだけ利用者の要望に答えられるように思いを把握し、管理者・ケアマネージャーと協力しながら一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や家族から嗜好やアレルギー等について尋ね把握している。嫌いなメニューの場合、別の物で対応したり、おかゆやおにぎり、きざみ食など個々に合わせた工夫をしている。また、季節に合ったメニューづくりを行っている。食事の準備や台拭き等利用者ができることをしてもらい、職員と一緒に楽しく会話をしながら食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回を基本に入浴したい時に準備し、入浴前に脱衣所を温めたり、それぞれの温度調整を手で確認するなど利用者が心地良く入浴出来る様に支援している。入浴を拒否気味の方にはタイミングを考慮したり無理強いせず清拭するなど工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は生活歴や出来ることから把握し、体調に合わせて洗濯物をたたんで頂いたりしている。利用者は貼り絵や塗り絵を行ったり、他のユニットと一緒にカラオケを楽しむなど思い思いに過ごせる様支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くの公園へ散歩に出かけたり、ピクニックや定期検診の帰りに公園へ立ち寄るなどしている。事業所の広いベランダでは、その日の希望によって森林や畑を見ながら外気浴の支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は道路に面しているため日中は内側からタッチボタンで開けるように工夫し、外部からは自由に入れ夜間のみ鍵をかけている。職員は鍵をかけることの弊害を研修等で理解しており、居室は声掛けや見守りの支援が行われ、常時鍵はかかっていない。		

グループホーム モン・サン時津

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行われ、地域周辺に周知し消防署立会いのもと避難訓練が行われている。内1回は運営推進会議後行われ、地域包括支援センター職員・自治会長・家族代表が職員と合同で参加し理解を深めているが、内容について、今後、夜間想定や出火場所を変えてからの訓練が必要と思われる。	○	避難訓練は災害時、利用者がちゃんと避難できるように誘導することが目的であり、夜間想定については、暫く行われておらず、職員の異動等も考慮し、今後、夜間想定や出火場所を変えた訓練を行うことを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取は業務日誌に記録し、栄養バランスは法人内の栄養士が管理している。食事は一人ひとりの状態に合わせておにぎりにしたり、とろみ等工夫し利用者ひとり一人の状態や力に合った支援をしている。水分摂取の把握は、季節の配慮や毎食のお吸い物・お茶・薬の水・おやつ・就寝前の水分摂取等水分量を把握しながらの支援が成されていた。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは広いリビングを中心に居室やキッチン、畳のコーナーが有り、調理時の刻む音や匂い等、利用者の五感を刺激している。室内には静かな音楽が流れ、利用者は思い思いの場所でゆったりと寛いでいた。明るく広い窓辺からは森林や畑が眺められ、リビングには季節感の有る飾りや貼り絵等の利用者の作品が飾られている。風呂場やトイレも広く使い勝手が良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くそれぞれ使い慣れたタンスやベッド、テレビ、電話、思い思いの写真や小物等好みに合わせて居心地よく配置されている。室内は明るく清潔に保たれている。		

※  は、重点項目。